

質的に赤字の受託事業や自主事業を行っているとも考えられる。

表 D6-3-3 受託事業の実質的な損益状況

(単位：千円)

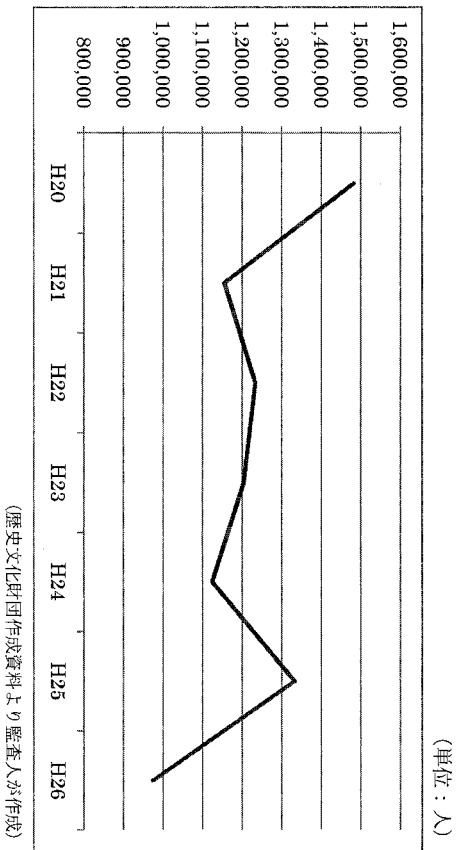
受託事業	平成24年度	平成25年度	平成26年度
経常収益計	1,320,727	1,358,792	2,630,530
経常費用計	1,291,082	1,253,353	2,486,960
決算書の損益	29,645	105,438	143,570
指定管理料収入※	1,028,475	1,026,489	2,277,972
(差引) 実質損益	△998,830	△921,051	△2,134,402

(歴史文化財団作成資料より監査人が作成)

※ 施設の大規模改修関連費用分等を含んだ数値である。

次に、江戸博における来館者数の推移についてはグラフ D6-3-2のとおりである。

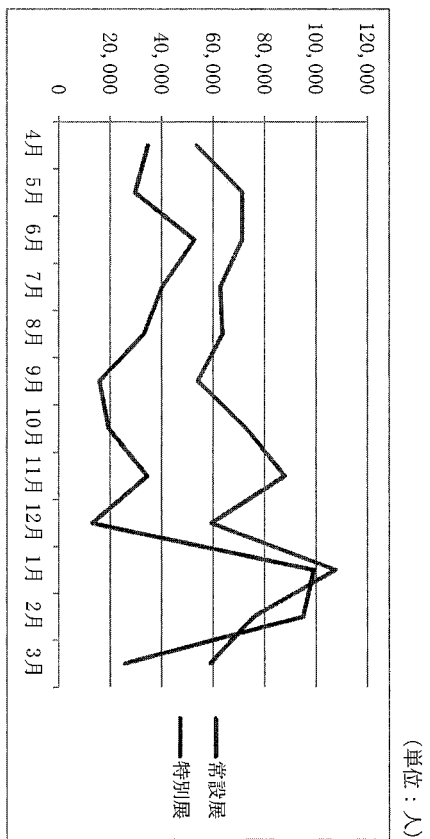
グラフ D6-3-2 江戸博における来館者数推移



平成26年度においては来館者数が減少しているが、これは平成26年12月より4か月間、リニューアルを行った影響によるものである。これらの要因を除けば、年間の来館者数は平均120万人前後であると考えられる。

なお、ここで注目すべきは、グラフ D6-3-3のとおり、特別展の成功・不成功によって、常設展の来館者数が変動すると考えられる点である。

グラフ D6-3-3 平成25年度における来館者数推移



このように、平成25年度の来館者数が多いのは、開館20周年記念特別展「大浮世絵展」が大変好評で、多くの来館者を迎えたことによると説明を受けている。しかしながら、表 D6-3-2のとおり、平成25年度においては、特別展による自主事業の経常収益(入場料)が例年と比べて非常に好調であるにもかかわらず、損益は大幅に赤字であることから、特別展が成功し、来館者数が増加しても、採算的に好調となるとは限らないことが分かる。

なお、江戸博は、平成26年12月1日からリニューアル工事を実施し、平成27年3月28日にリニューアルオープンしている。リニューアル工事の時期は、特別展の実施時期など館全体の事業計画の中で決まったこととされており、1年の3分の1(約4か月)が工事期間であることから、年間来館者数が平均120万人だとすれば、平成26年度の来館者数は、その120万人の3分の2(80万人)と想定される。グラフ D6-3-2の実績はこの想定を上回っていることから、リニューアル工事による来館者数減少の影響を最小限に抑えられたことが推測される。

しかしながら、担当者とのヒアリングの中で、例年、12月から3月は来館者数が多く、6月や9月は比較的に来館者数が少ないとの話を伺っており、この期間中にリニューアル工事をを行うことを避けて、6月や9月に実施した方が、より年間来館者数は増えたのではないかと考えられる。

この点、リニューアル時期を検討した資料はなく、監査人は工事時期の妥当性を検討することができなかった。

【参考】
文化振興部の所管する美術館・博物館の中で江戸博は特に規模が大きい。また「文化」や「歴史」を扱う点で特徴があり、この点で類似する大阪歴史博物館との比較は、表 D6-3-4 のとおりである。

表 D6-3-4 江戸博と大阪歴史博物館比較

項目	江戸博	大阪歴史博物館
設置者	東京都	大阪府
運営形態	指定管理者	指定管理者
運営者	歴史文化財団グループ	公益財団法人大阪市博物館協会
敷地 (㎡)	29,293	13,000
延床面積 (㎡)	48,512	42,306
年間来館者数 (人)	1,332,923	416,230

(注) 年間来館者数については、平成 25 年度における集積値を用いている。
(生活文化局作成資料より監査人が作成)

表 D6-3-4 から分かれるとおり、江戸博は国内における類似施設と比較しても、その規模が大きいことが分かる。また、年間来館者数も大阪歴史博物館の約 3 倍であり、江戸博の人気の高さがうかがえる。

(3) 東京都写真美術館の損益等の状況について

写真美術館は、都民が写真をはじめとする映像文化に親しむ新たな文化創造の場、そして国際的な文化交流の場として、恵比寿駅近くに設置されている。国内の写真・映像美術館として高い評価を受けているが、あいにくリニューアル工事中であったため、監査人は視察をしていない。

写真美術館で実施される主な事業は以下の 3 つである。

- ・ 自主事業…企画展示
- ・ 受託事業…収蔵展 (指定管理者としての事業)
- ・ 収益事業…ショップ・カフェの運営、出版物販売等

さて、これら主要 3 事業の、平成 24 年度から平成 26 年度の損益状況は、表 D6-3-5 のとおりである。

表 D6-3-5 写真美術館正味財産増減計算書

(単位：千円)

自主事業	平成24年度	平成25年度	平成26年度
入場料	39,596	37,052	22,351
協賛金	77,443	77,666	75,970
受取東京都負担金	89,000	89,000	89,000
その他	25,999	28,157	20,713
経常収益計	232,039	231,877	208,035
経常費用	231,067	223,857	200,709
(差引) 損益	971	8,020	7,325

受託事業	平成24年度	平成25年度	平成26年度
入場料	27,893	29,379	15,928
施設使用料	26,126	25,827	14,459
管理運営受託収益	677,930	690,868	741,174
その他	18,352	16,003	13,454
経常収益計	750,302	762,078	785,016
経常費用	745,598	764,121	757,271
(差引) 損益	4,704	△2,042	27,745

収益事業	平成24年度	平成25年度	平成26年度
出版物販売	4,244	6,871	3,583
管理手数料	6,723	6,799	3,131
管理運営受託収益	4,564	4,515	970
その他	2,413	6,210	1,909
経常収益計	17,945	24,397	9,595
経常費用	11,803	17,224	6,530
(差引) 損益	6,142	7,172	3,065

(歴史文化財団作成資料より監査人が作成)

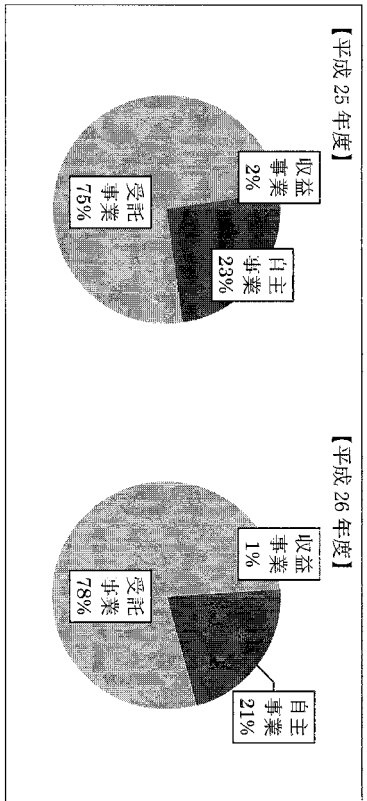
(注) 歴史文化財団の決算書を基に作成しているため、文化振興部所管の建物減価償却費などのコストを含んでいない。

平成26年度は、9月から大規模改修のため約半年間の休館をしており、入場料等収益が他の年度と比べて減少している。

なお、平成26年度の受託事業には改修工事に係るものが一部含まれている。

次に、平成25年度及び平成26年度の事業別収益割合はグラフ D6-3-4 のとおりである。

グラフ D6-3-4 写真美術館における各事業収益割合 (平成25年度及び平成26年度)



(歴史文化財団作成資料より監査人が作成)

(注) 経常収益を基に算定している。

表 D6-3-5 及びグラフ D6-3-4 (歴史文化財団の決算書ベース) から次のことが読み取れる。まず、平成26年度の収益割合では、受託事業が8割と高く、自主事業が2割、収益事業が若干の割合である。平成26年度はリニューアルという特殊要因があったが、平成25年度を見た場合でも、その収益割合に大きな変化はない。受託事業は文化振興部からの指定管理料収入など受託収益があるためか黒字が毎年継続している点はホール系文化施設と同様である。また、写真美術館の特徴として、自主事業で毎年77百万円の協賛金を獲得しており、黒字体質であることが挙げられ、3つの事業全体で毎年黒字であることが、他の文化施設と異なる。

なお、ホール系文化施設と同様、歴史文化財団の決算書には文化振興部からの指定管理料収入が含まれる。この指定管理料を除けば、受託事業は、表 D6-3-6 のとおり、実質的には赤字である。

表 D6-3-6 受託事業の実質的な損益状況

(単位：千円)

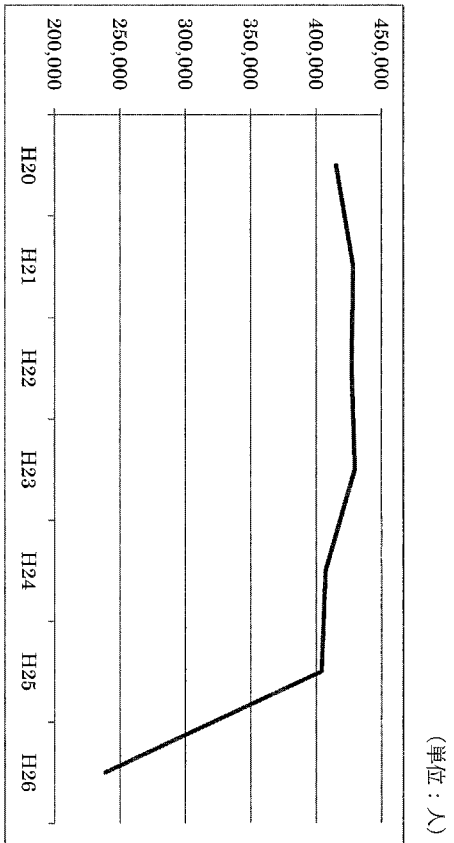
受託事業	平成24年度	平成25年度	平成26年度
経常収益計	750,302	762,078	785,016
経常費用計	745,598	764,121	757,271
決算書の損益	4,704	△2,042	27,745
指定管理料収入※	677,930	690,868	741,174
(差引) 実質損益	△673,226	△692,910	△713,429

(歴史文化財団作成資料より監査人が作成)

※ 施設の大規模改修関連費用分等を含んだ数値である。

次に、写真美術館における来館者数の推移についてはグラフ D6-3-5 のとおりである。

グラフ D6-3-5 写真美術館来館者数推移



平成 26 年度においては来館者数が減少しているが、これは平成 26 年 9 月からリニューアル工事のため休館している影響である。その要因を除けば、年間の来館者数は平均 40 万人強であると考えられる。他の文化施設と比べ、施設規模がコンパクトで来館者数も少ないが、財団運営上は黒字の体質である。

(4) 東京都現代美術館の損益等の状況について

現代美術館は、都民が優れた現代美術を中心とする美術作品に接する機会と創造・交流活動の場として、また、日本における現代美術の振興を目的として設置されている。設置場所は、木場公園内に位置する。監査人が視察した際、モダンで近代的な建築物といった印象を受けた。この建築物を背景にプロの写真家から雑誌やポスターの撮影も数多く依頼されている。

現代美術館で実施される主な事業は以下の3つである。

- ・自主事業…企画展の開催
- ・受託事業…常設展、講堂等の貸出し (指定管理者としての事業)
- ・収益事業…ショップ・レストラン・駐車場の運営、出版物販売等

さて、これら主要 3 事業の、平成 24 年度から平成 26 年度の損益状況は、表 D6-3-7 のとおりである。